



## この街のファサードはアーケードとなる

何よりもファサードを残したい

現代において建築の再生方法は2つだ  
ストラクチャーを基軸としたものと、建築を壊すがプログラムを残し新築するもの。しかし、桐生市にふさわしいのは Facade を基軸とした新たな  
再生方法ではないか

既存 Facade を保存することは過去から現在の街並みを形づくり、それを未来にかけ渡すものとして、伝統的建築群に回答すると考えた

また、私たちが桐生市を訪れて、感じたのは観光地 化するには歩道が狭いということだ  
このことを解決するために先述の再生方法と歩道の拡張を行う

この私たちの提案は、短い目で見ればこの地域に対する伝統的建造物の再生であり、長い目で見れば既存 Facade がつくるアーケードとしてこの地  
に根付いてゆくものとなるだろう

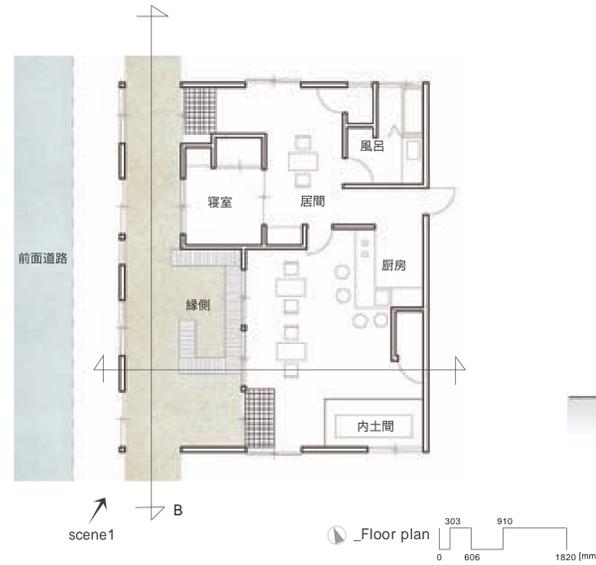
## Site no2(B)



### 既存建物データ

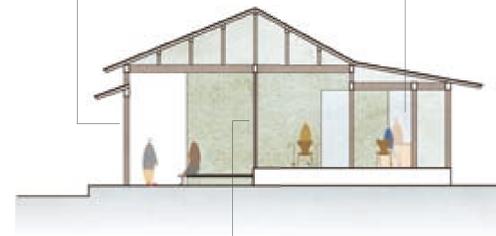
- ・建物形式：二戸長屋
- ・機能：住宅 住宅+

当該建物Bでは住宅の Private を保ちつつ、SOHO として Public Street に対して開くことを主旨とした。そのために 2nd Facade は昼間は人が滞留できるように縁側をもろけ、夜は完全に仕切りながらも建具から内部の明かりが Public Street に漏れてくるようにした。

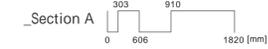


ファサードを保存し、内側に新しい通りを設けることで、既存のファサードでつくられたアーケードをつくる

住居と店舗のキッチンを共有する



開閉可能な仕切りにより公私を分けることで、二つの空間の関係は変化する



住居の入口をセットバックさせることで、内側に private な空間を確保しつつ、既存のファサードと住居の間に道をつくる



既存ファサードの内側に作られる新しいファサード



\_scene1

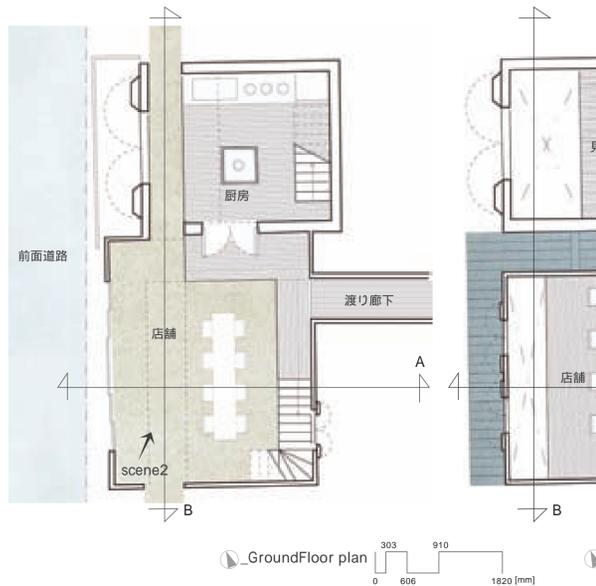
## Site no6(F)



### 既存建物データ

- ・建物形式：店舗・蔵
- ・機能：店舗+蔵 店舗+見せ蔵

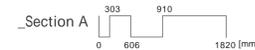
本計画では当該建物Fの本町通りに面する、店舗と蔵部分を対象とした。このプランニングにおいては既存の店舗と蔵建築に対して、Public Street を挿入することで可能になる内部空間を魅せるための 2nd Facade を形成することを主旨とした。



既存の蔵の窓からやわらかな光が1階に降り注ぐ

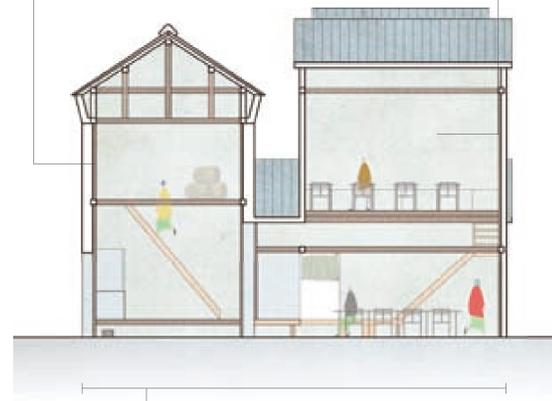


住居へと続く渡り廊下が Private と Public を別つ

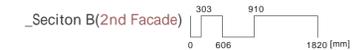


Public street から見える見せ蔵

蔵を再生した店舗空間



異なる建築形態2棟の連結によって生まれる、魅せる 2nd Facade.



\_scene2

### Site date



Site no2(B)

Site no6(F)

\_Conservation district map

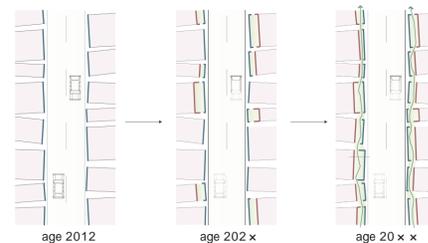
今回は敷地番号 2、6 (建物番号 B、F) の二つの建物を例とした再生を提案する。

### 現状の桐生市建築保存



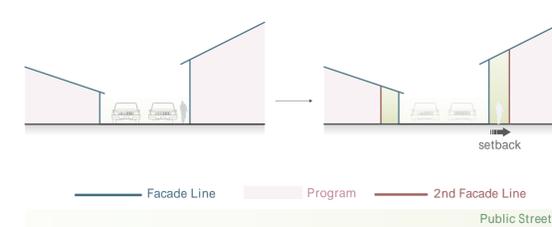
桐生市では、他地域と異なり、Facade を基軸として伝統建築の保存が行われる。

### 歩道拡張



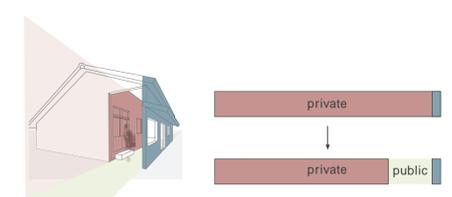
現存する伝統建築物の Facade 保存を基軸とした、時を重ねて形成される Public Street を提案する

### Facade 保存



現在、観光のメインとなる本町通りには歩道がなく、観光客にとって歩きにくいと言える。そこで、Facade を保存しつつ、内部機能の壁面をセットバックし、Facade と内部機能の間に Public Street を計画する

### Private と Public の分離



2nd Facade を設けることで、Public Street を確保しつつ、Private と Public を分離した。